

研究室紹介

島根県農業技術センター 資源環境研究部 病虫科

島根県農業技術センターは2005年に各作物の栽培に関する研究を行う栽培研究部、育種や栽培環境に関する研究を行う資源環境研究部と総務企画部に普及組織である技術普及部を加え発足しました。業務内容は農業の新技術開発、環境保全および経営の合理化に必要な試験研究、調査、分析、種苗の配布、技術指導並びに普及に関する指導を行っています。

病虫科は資源環境研究部に属し、2021年3月現在9名の研究員により島根県の主要な農作物で問題となる病害虫の生態の解明、防除対策技術の開発、総合的病害虫管理に関する研究を行っています。また、1995年に病害虫防除所業務を行う発生予察科と統合し、水稻、野菜、果樹、花きの発生予察業務を行っています。以下に近年取り組んでいる課題について紹介します。

水稻では高密度播種苗移植栽培などの新しい栽培方式による病害虫の発生状況や島根県が品種育成を行っている酒米に対する病害虫の発生状況調査を行っています。

野菜では「島根県農業基本計画」の中で水田転作として6品目を定め推進している中でタマネギの黒かび病の対策として防除時期、防除薬剤の選定、ネギアザミウマの発生生態および防除について試験を行っています。また、イチゴのうどんこ病やハダニ類等難防除病害虫に対して育苗期に、効果の高い薬剤の散布、高濃度二酸化炭素くん蒸処理や天敵放飼を行うことで栽培期間を通して効率的な防除対策、体系について調査を行っています。



褐色紋枯病

赤色菌核病



イネクロカメムシ成虫

タマネギ黒かび病

花き類では島根県で育成したオリジナルアジサイにおいて特異的に発生する育苗期の茎や根の腐敗症状の原因を究明しました。その結果、4種の *Pythium* 属菌による病害であることを明らかにしアジサイ茎根腐病と命名しました。本病原菌の生態を明らかにするとともに、アゾキシストロピン・メタラキシル M 粒剤の防除効果が高いことを明らかにし農業登録を行うなど日本有数の産地における品質安定化に貢献しています。

果樹では施設ブドウ栽培において、土着天敵と天敵製剤を利用した害虫防除について検討を行い、カブリダニ類の定着促進に向けた環境についての調査を行っています。また、カキ栽培ではミツバチ放飼、受粉樹の有無等条件の違う圃場で花粉媒介昆虫相の調査を行い、主要な訪花昆虫について調査を行っています。

新農薬実用化試験では水稻の疑似紋枯症、イネクロカメムシ、イネヒメハモグリバエ、トマトの葉かび病、カキの灰色かび病、コナカイガラムシ類、ブドウのハダニ類に対する試験を中心に行っています。

これらの課題のほかに現場から持ち込まれる病害虫の診断を行い、原因と防除対策について情報を提供しています。今後、温暖化などの環境の変化により病害虫の発生状況が変化していくことが予想されますが、これまでの経験を基に本県の農作物の安定生産に貢献できるよう取り組んでいきたいと思ひます。

(科長 澤村信生)